

今後の厚生労働科学研究における主な研究課題等について（案）

1. はじめに

厚生労働科学研究が対象とする分野は幅広く、ニーズの把握とシーズの創出に向けた探索的な研究や基盤整備に取り組むとともに、選択と集中による有望なシーズの迅速な社会還元を目指す必要がある。その際、ニーズの把握（国民生活の安全・安心を脅かす課題の科学的な把握）、シーズの創出（課題を解決する新技術等の創出）、及び成果の社会還元に向けた研究に、バランスよく取り組むことが重要となる。

今後の厚生労働科学研究において重点化すべき主な分野としては、以下が考えられる。

- 健康長寿社会の実現に向けた研究
- 少子化・高齢化に対応し、活力あふれる社会の実現に向けた研究 等

2. 今後の厚生労働科学研究における主な研究課題等

厚生労働科学研究は、国民の健康と安全の向上に資する研究であり、重点化すべき分野以外の分野についても着実な対応が必要な場合が多く、ニーズの把握やシーズとなる研究の状況等の確認を行いつつ、研究課題を適切に設定する必要がある。

具体的な研究課題の設定においては、以下の点に留意することとする。

- 取り組むべき課題について、パブリック・コメントを実施し、広く意見を聴取する。
- QOL の向上に関する研究等、ソフト面の研究（及び該当分野の PO）の拡充も図る。そのため、予め具体的な評価基準を検討する。
- 「技術評価・政策評価に関する研究」も重視する。